

### ■ 塀

ブロック塀や石塀の倒壊により、ケガや死亡する例もみられます。また、倒れた塀が道路をふさぐと、避難や救助・消火活動の妨げとなる場合もあります。必要に応じて補強・撤去をするか、植物などの生垣に変えることも有効です。

**補助 3** ブロック塀などの耐震改修・除却

改修・造替	倒壊の恐れがあるブロック塀などの改修・撤去・造替工事費用の一部を助成します。
最大 10 万円	

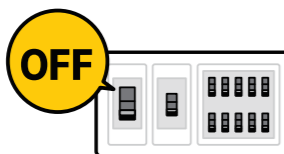
**【対象となる塀】** 次の全ての要件に該当する塀

- ①避難路沿道に面していること
- ②道路面から高さが 80cm 以上あること

## ■ 通電火災を防ぐ

地震などにより発生した停電が復旧したとき、損傷した配線や転倒したヒーターなどに再通電することで出火を引き起こす通電火災。避難所などへ避難している場合、出火時の初期消火が行えない恐れも。

日ごろから電気や電気製品の安全な取り扱いの知識を深めるとともに、停電発生時の適切な行動を確認しましょう。



## ■ 住宅や塀の耐震診断・補強

**住宅** 阪神・淡路大震災では、家屋などの倒壊による死者が約 8 割を占めました。昭和 56 年以前に建てられた建物は、旧耐震基準で建てられているため、耐震診断を受け、必要に応じて耐震補強を行いましょう。また、昭和 56 年以降に建てられた建物であっても、バランスが悪いものや地盤が悪い場所に建てられているもの、壁や基礎にひび割れがある建物なども注意が必要です。必要に応じて耐震補強を行い、自分の家の安全を確保しましょう。

**補助 1** 木造住宅耐震診断

耐震診断 + 補強計画	自己負担額 6 千円	木造住宅の耐震診断を希望する人に対し、診断者派遣を行います。
-------------	------------	--------------------------------

**【対象住宅】** 次の全ての要件に該当する住宅

- ①町内に存する住宅
  - ②所有者自ら居住する住宅
  - ③昭和 56 年 5 月 31 日以前に建設された住宅
  - ④在来軸組工法、伝統的工法、枠組壁工法による木造 3 階建以下の住宅
  - ⑤過去にこの事業による耐震診断を受けていない住宅
- ※増築を行った住宅は、対象外となる場合があります。

**補助 2** 木造住宅耐震改修

一般改修	簡易・部分改修
最大 100 万円	最大 60 万円

補助 1 の耐震診断により、耐震基準に適合しないと診断された木造住宅の耐震改修工事、現地建替工事費用の一部を助成します。

### ▶ 日ごろからの備え

- ・漏電ブレーカーや感震ブレーカーを設置する
- ・耐震自動消火装置や転倒 OFF スイッチなどが付いている電気製品を使用する
- ・可燃物の近くで暖房器具などを使用しない

### ▶ 停電時の備え

- ・電気製品のスイッチを切り、電源プラグを抜く
- ・自宅を離れる場合は、ブレーカーを落とす

### ▶ 再通電時の備え

- ・壁内の配線や電気製品内部の損傷により出火する恐れもあるため、煙の発生など注視する

今年の 3 月 11 日で、東日本大震災から 13 年を迎えます。この間、熊本地震や北海道胆振東部地震など、全国各地で地震が発生しています。2021 年・2022 年には、最大震度 6 強を観測した福島県沖を震源とする地震が発生し、町内でも甚大な被害を受けました。そして、今年の 1 月 1 日には、最大震度 7 を観測した能登半島地震が発生。未だ多くの支援を要する状況が続いています。

いつ起きるか分からない自然の脅威である地震を防ぐことはできませんが、日ごろからの「備え」により身を守ることはできます。大切な命を守るためには、もう一度、地震対策を確認しましょう。

## 大地震を想定して――

# 今日からできる地震への備え

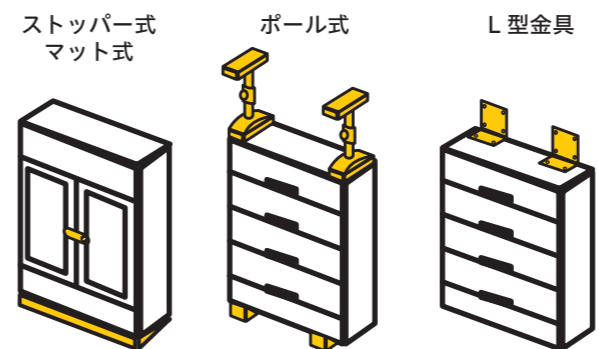
いつ、どこで発生するか分からない地震。そんな地震から身を守るためには、さまざまなことを想定した事前の備えが重要です。今日からできる地震への備えを、もう一度確認し、命を守る行動につなげていきましょう。

## POINT 1 思わぬ危険から身を守る

### ■ 家具の転倒を防ぐ

地震により、建物への被害がなくても、家具・家電などが転倒し、下敷きになってケガをしたり、避難経路を塞いでしまったりする恐れがあります。家具などの転倒防止を防ぐさまざまなグッズが販売されていますので、自宅の家具や壁に合った器具類・使用方法を選び、適切に取り付けましょう。

▶ 万が一転倒したときのために、普段寝ている場所や部屋のドア付近、廊下、火気周辺には、倒れそうな家具類の設置は避けましょう。



一番強度があるのは L 型金具ですが、ストッパー式・マット式とポール式を組み合わせることで、L 型金具同等の強度に！

### ■ ケガを防ぐ

地震後は、転倒などにより破損した家具・家電類の破片やガラス類の破片が床に散乱している場合があります。手足を保護するために、軍手や靴・スリッパなどを、複数箇所に用意しておきましょう。

▶ 夜間の地震発生に備えて、軍手や靴、懐中電灯、眼鏡などを枕元に用意しておきましょう。

